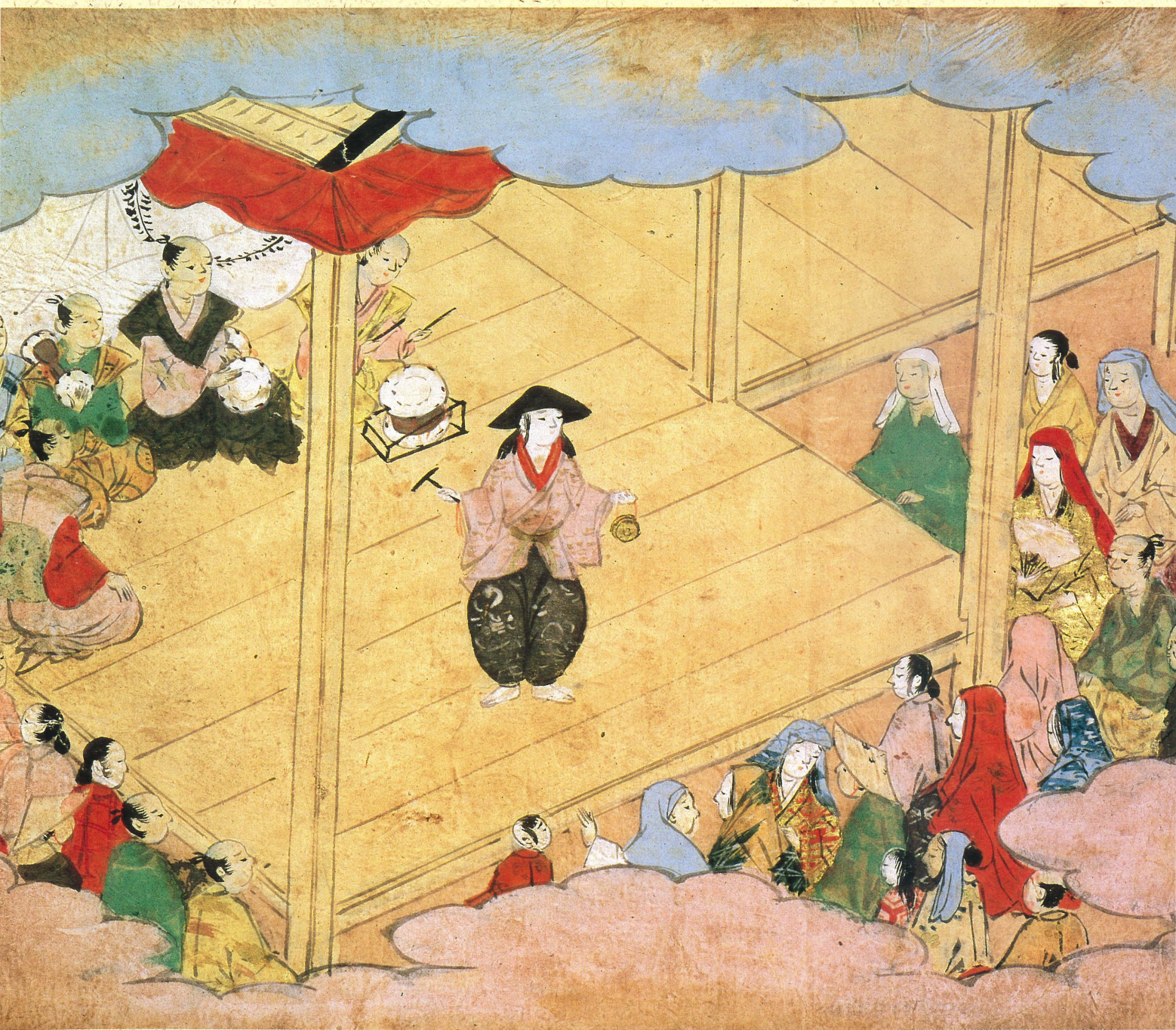


京都大学附属図書館概要

Outline of the Kyoto University Library

1993/1994



Kyoto University Library

Yoshida Honmachi,
Sakyo-ku, Kyoto 606-01
JAPAN

歴代館長 Directors

氏名	就任	退任
島 文次郎	明治32.11. 6	明治43. 7.25
石川 一	43. 7.25	44.10. 1
新村 出	44.10. 1	昭和11.10.19
羽田 亨	昭和11.10.19	13.11.25
本庄 栄治郎	14. 1.17	17. 7.28
沢瀉 久孝	17. 9. 1	22. 5.31
原 随園	22. 5.31	24.11. 8
泉井 久之助	24.11. 8	32. 7.15
田中 周友	32. 7.15	38. 7.14
足利 惇氏(事務取扱)	38. 7.15	38. 7.25
堀江 保藏	38. 7.25	41. 7.24
穴戸 圭一	41. 7.25	46. 3.31
平岡 武夫	46. 4. 1	48. 3.31
林 良平	48. 4. 1	57. 3.31
高村 仁一	57. 4. 1	59. 3.31
西原 宏	59. 4. 1	61. 3.31
西田 龍雄	61. 4. 1	平成 4. 3.31
朝尾 直弘	平成 4. 4. 1	

目次 Contents

はじめに Introduction	1
年譜 Chronology	2
図書館の機能 Services	3
1F：利用と調査 Circulation and reference services	4
2F：閲覧と資料 Reading rooms and study carrels	6
3F：展示と会議 Exhibitions and meetings	7
4F：情報処理の中核 Library computer room	8
BF：保存 Deposit stacks	9
建物概要 Building	10
図書館の現況と統計 Outline of the Library and it's statistics	11
組織その他 Organizations and other data	12
案内地図 Location and maps	13

はじめに

Introduction

京都大学附属図書館は、京都帝国大学の創立から2年半後にあたる、明治32(1899)年12月11日を創立の日としている。当時の建物は、一部を残して昭和11年1月に焼失した。二代目の建物は戦前に起工されたが、戦時下のために昭和23年になって竣工式が行われ、同年に開館した。その建物は三代目(現在)の図書館が同一場所に建てられたため、昭和56年8月に解体された。現在の附属図書館は昭和59(1984)年4月に開館したが、これまでの施設に比べて大幅に改善されている。

3層の地下書庫は約100万冊の収容能力を持ち、そこには学内所蔵雑誌のためのバックナンバーセンターが設けられている。5万冊の収容能力を持つ貴重書庫は、壁天井床がすべて木製の校倉造りとなっており、空調防災の面も、十分に完備されたものとなった。そこには、170点の重要文化財をはじめ、国内国外の貴重な文献資料が納められている。

本館の情報サービスは内外の学術情報システムの成長と相応し、大きく飛躍した。現在、学内外の170台を上回る端末機が本館の電子計算機に、LAN(KUINS)を通して接続されている。それら端末機を通じた目録検索をはじめ、EFSサービスの試行、CD-ROMサービス等電子図書館としてのサービスは、今後とも改良拡張するように検討している。

平成3(1991)年秋、京都大学の全蔵書冊数は500万冊に達した。創立以降百年近い期間に、先学や図書館関係者が収集に努力した賜物といえる。近年、大学(院)設置基準の改正にみられるように、大学全体の姿が大きく変わろうとしている。500万冊の資料は、情報の発信源としての本館が、新たな学術環境に寄与していくための原資となるものである。これを次の世代に継承することもまた、本附属図書館の最大の責務であるといえよう。

京都大学附属図書館

- 明治30(1897)年 6月 京都帝国大学創立
- 31(1898)年 7月 書庫の完成(第1書庫、煉瓦造、2階建)
- 32(1899)年 7月 閲覧室および事務室の竣工
- 11月 初代館長 島 文次郎補任
- 明治32(1899)年12月 11日 閲覧業務開始** この日をもって附属図書館創立の日とした
- 36(1903)年 4月 書庫の増築(第2書庫、煉瓦造、3階建)
- 41(1908)年12月 「附属図書館商議会規程」制定
- 大正14(1925)年 7月 書庫の増築(第3書庫、鉄筋コンクリート造、4階建)
- 昭和 8 (1933)年 9月 第2閲覧室開設(法経新館2階)
- 9 (1934)年 2月 本学の蔵書数100万冊
- 11(1936)年 1月 第1閲覧室焼失
- 22(1947)年10月 京都帝国大学附属図書館は京都大学附属図書館と改称した
- 23(1948)年 2月 2代目、図書館竣工
- 34(1959)年 2月 本学の蔵書数200万冊
- 12月 附属図書館創立60周年記念式典挙行
- 38(1963)年12月 開架閲覧室開設
- 39(1964)年 9月 附属図書館報「静脩」を創刊
- 41(1966)年 4月 電子複写式による文献複写業務の開始
- 46(1971)年 3月 本学の蔵書数300万冊
- 54(1979)年12月 附属図書館創立80周年記念式典挙行
- 56(1981)年 1月 商議会「京都大学附属図書館新営計画」を決定
- 12月 本学の蔵書数400万冊
- 58(1983)年 1月 分類表の変更(NDLC：国立国会図書館分類表を採用)
- 10月 3代目、図書館竣工(現行)
- 59(1984)年 4月 現行図書館開館 貸出返却(開架図書)の機械処理開始
- 60(1985)年 1月 バックナンバーセンター開設
- 6月 本館電子計算機、東京大学文献情報センターとの接続完了
- 11月 商用オンライン情報検索サービス、代行検索の開始
- 62(1987)年 1月 外国雑誌センター館(理工学系)業務開始
- 平成 2 (1990)年 8月 館内CD-ROMサービス開始
- 10月 OPAC/TSS(Online Public Access Catalog)運用開始
- 3 (1991)年 3月 本館電子ファイリングシステム、宇治化学研究所図書室と接続完了
- 9月 本学の蔵書数500万冊
- 10月 今昔物語集(鈴鹿本)寄贈、修理
- 4 (1992)年 4月 ILLサービス開始
- 5月 完全週休2日制下での土曜日開館開始
- 10月 日米ワンデイセミナー第13回大学図書館研究集会を幹事館として開催
- 5 (1993)年 7月 電算機更新、6年1月稼動予定

図書館の機能

Services

資料の提供 Reference and lending (附属図書館・館内資料として約70万冊所蔵している)

教養図書	(一般教養図書や学習図書を約7万冊開架している)
AV資料	(英独仏露中日の語学学習テープ・ビデオテープを用意している)
研究資料	(各種資料を、全分野にわたって全学的な利用に供している)
参考調査資料	(約3万冊の資料が参考資料コーナーにある)
各種コレクション	(17点のコレクションが特殊文庫として整理されている)
貴重図書	(図書や標本、特殊文庫の多くが貴重書として特別な保管が施されている)
重要文化財指定	(39種、170冊の図書が指定を受けている)
学術雑誌	(工学部所蔵の化学系約400誌と、本館所蔵の約100誌がある)
理工学系外国雑誌センター	(他大学にはない、珍しいものを含めた約1000誌の外国雑誌がある)
マイクロ資料	(フラフ資料、新聞、貴重図書などがマイクロ化されている)
フラフ資料	(世界の人類学・民族学・社会学・言語学関係の特殊資料である)
	Human Relations Area Files

情報の提供 Information services (学内、近畿北部、学術情報センターとネットワークを結んでいる)

調査の援助	(書誌情報調査や、図書館利用の援助をする)
資料の所在	(資料の所在場所を確認し、入手の援助をする)
オンライン目録検索	(館内や学内の専用端末で、京大と近畿北部国立大学の資料を検索できる)
OPAC/TSS	(上記オンライン目録を、研究室のパソコンなどからも検索できる)
オンライン情報検索	(学術情報センターや商用のデータベースを有償で検索できる：校費扱い)
総合目録カード	(オンライン化されていない図書のために、京大全学図書総合目録がある)
情報の入手	(国内および諸外国主要図書館所蔵の、資料情報を入手できる)
図書館相互協力	(文献複写サービスを中心とした、図書館間の相互協力に参加している)
ニューメディアのサービス	(新しく流通しはじめたニューメディアにも迅速に対応している)
CD-ROM	(内外の二次資料やその他新聞記事を、パソコンで自由に検索できる)
オンライン雑誌目次提供	(KUINS：京大キャンパス・ネットワークを利用して、宇治の研究所図書室に、新着雑誌目次のイメージ情報を試験提供している)
展示会・講演会	(通常接することのできない貴重資料を、テーマ別に年2回公開している)

保存の機能 Deposit

貴重書庫	(24時間恒温恒湿、防火設備のある貴重資料保管用の書庫である)
バックナンバーセンター	(学内所蔵雑誌のバックナンバーが約7500誌、地下書庫に保管されている)

利用の機能 Utilities

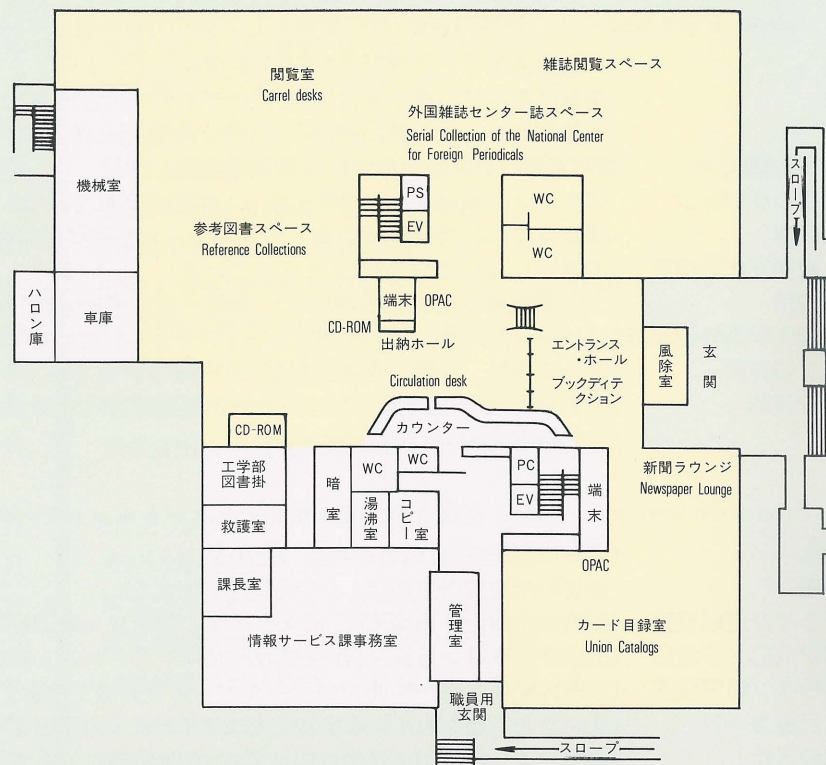
入退館の簡易性	(ゲートで図書利用証を挿入すれば入館できる。退館は自由である)
貸出・返却の簡易性	(開架図書の手続きは、コンピュータで迅速にできる)
情報の集中化	(1階のメインカウンターで、ほとんどの手続きを済ませられる)
開架書架	(多くの新着図書を、自由に手に取って利用できる)

調整の機能 Inter-Library coordination

図書館(室)の協力調整	(学内64個所の図書室間の相互協力など、連絡調整を行っている)
近畿北部地区ネットワーク	(滋賀・京都・奈良の国立大学各附属図書館の図書や雑誌に関する情報処理センターとしての役割を担っている)

1F:利用と調査

Circulation and reference services



▲玄関 Entrance to the Library

吹き抜けを見通す遮光ガラスの玄関ポーチには、20㎡の自動ドア付き風除室があり、夏冬ともに快適な空調効果を約束する。重厚な煉瓦タイル張りの玄関に立ったとき、歴史と伝統への信頼感もたらされる。



▲メインカウンター Circulation desk

ゲートで利用証を挿入し、入った所にメインカウンターがある。館内のほとんどのサービスはここでやっている。7つに分かれた各セクションでは、インフォメーション、図書雑誌の出納、複写サービス、参考調査等の機能をはたしている。

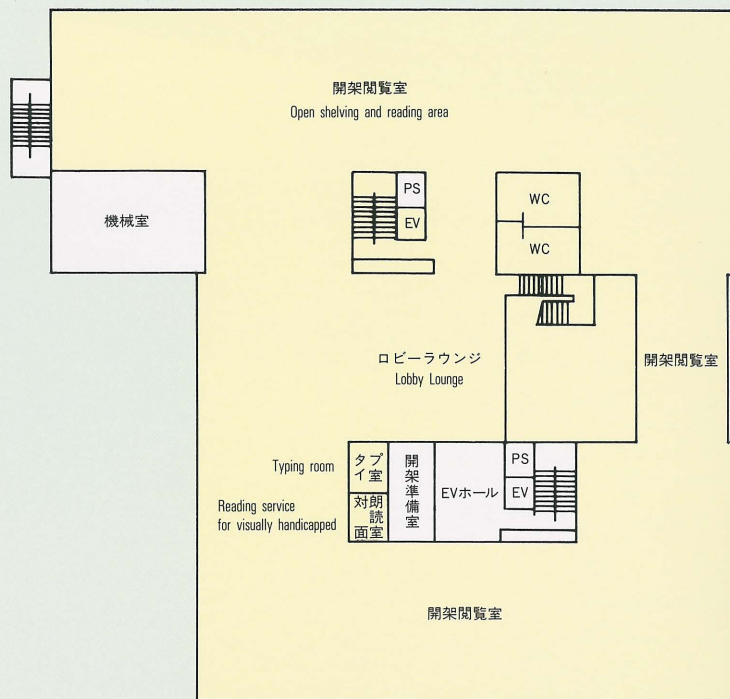


▲オンライン目録検索用端末機 OPAC(Online Public Access Catalog)

利用者用に十数台の端末機が用意されている。京都大学および近畿北部地区国立大学が入手した図書および雑誌の所在情報を検索できる。他に、CD-ROM検索用のパーソナルコンピュータも数台用意されている。

2F: 閲覧と資料

Reading rooms and study carrels



▲2階開架閲覧席 2F. Open shelving and reading area

全館876席のうち、ここ2階閲覧室には約600席が用意されている。中心にユーティリティー、ラウンジ、吹き抜けなどを集め、その周辺に書架をセットしたコア様式により、閲覧席は自然光を十分に得られる仕組みになっている。

3F: 展示と会議

Exhibitions and meetings

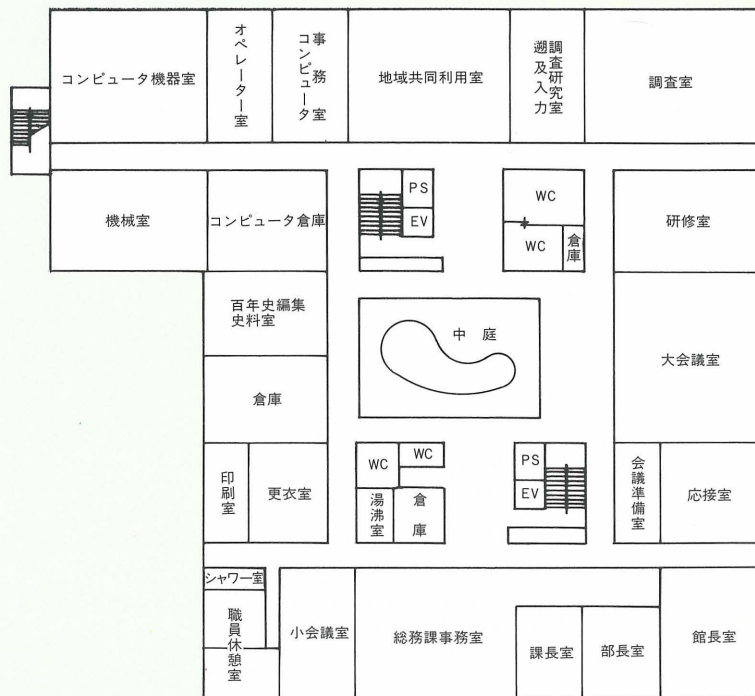


▲展示ホール Exhibition hall

これまで、近世京都展、洋学史資料展、揺籃期の京都大学、近世人の読書、ジャーナリズムの源流、維新資料展、和漢古典籍のさまざま、近代ヨーロッパ思想の歩みなど、貴重書や特殊コレクションをテーマ別に展示してきた。

4F: 情報処理の中核

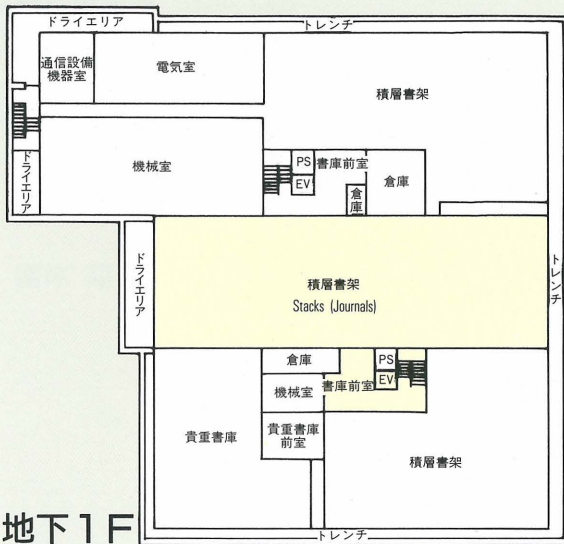
Library computer room



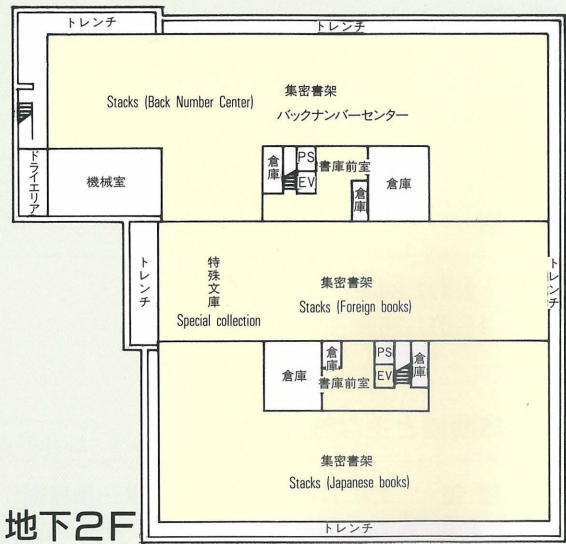
▲コンピュータ Computer room

ホストコンピュータ (FACOM M-1400) は60MBの主記憶、25GBの外部記憶装置を実装している。これを利用して
 いる端末機は、学内151台、近畿の5大学で36台である。近畿北部地用データベースの構築と利用、受入予算管理などに
 使われている。(平成6年1月稼動予定)

BF:保存 Deposit stacks



地下1F



地下2F

▲地下書庫 Stacks(BF 1,2)

地下1Fには約25万冊の収容力をもつ積層式書架に、内外雑誌や京都大学博士学位申請論文を収蔵する。最深の地下2Fには約75万冊収容可能な集密書架に、バックナンバーセンターと特殊文庫を置き、また50万冊の和洋図書を収蔵している。



▲貴重書庫(地下1F) Treasure room(BF1)

5万冊の収納力がある貴重書庫は、24時間連続の空調設備をもち、内部はブナと米杉の板張りとなっている。とくに壁面は板を落とし込みにしており、いわゆる校倉造りとなっている。このため結露、湿度変化への対応は万全である。

建物概要 Building

構造

鉄骨鉄筋コンクリート造り (SRC)
地上4階 地下2階 塔屋1階

面積

建 2,477.86㎡
延 14,011.25㎡

各階床面積と主な施設内容

塔屋階	256.77㎡	エレベーター機械室、空調機械室
地上4階	2,262.09㎡	大会議室、小会議室、研修室、地域共同利用室、調査室、応接室、コンピュータ機器室、オペレーター室、遡及入力調査研究室、百年史編集史料室、館長室、部長室、総務課事務室、印刷室、職員休憩室、更衣室
地上3階	2,297.98㎡	展示ホール、AVホール、映写室、AVブース、特殊資料室、貴重書閲覧室、研究個室、共同研究室、教官談話室、情報管理課事務室
地上2階	2,168.70㎡	開架閲覧室、タイプ室、ロビーラウンジ、対面朗読室
地上1階	2,319.29㎡	玄関、エントランスホール、カウンター、新聞ラウンジ、カード目録室、検索用端末コーナー、参考図書スペース、雑誌閲覧スペース、外国雑誌センター誌スペース、救護室、暗室、情報サービス課事務室、管理室
地下1階	2,353.21㎡	貴重書庫、積層書庫
地下2階	2,353.21㎡	集密書庫

設計

京都大学施設部、株式会社富家建築事務所、株式会社末松設備総合コンサルタント

管理

京都大学施設部

工期

着工/昭和56年12月26日 竣工/昭和58年10月20日

総工費

2,677,500千円 (建築 2,030,550千円 設備 646,950千円)

図書館の現況と統計

Outline of the Library and it's statistics

■開館時間 Library hours

平日（夜間閉館） 土曜日	午前9時～午後9時まで 午前10時～午後5時まで
特定期間（夜間閉館） 1月6日～1月10日 7月21日～8月4日 8月16日～9月10日	午前9時～午後5時まで

■休館日 The Library is closed on the following days

- ・日曜日、国民の祝日等
- ・本学創立記念日（6月18日）
- ・図書整備等、業務上の都合による休館日

毎月末日（末日が日曜祝日にあたる場合は、その翌日）
4月1日～4月5日 8月5日～8月15日 12月25日～翌年1月5日
以上のほか、臨時休館することがあります。

■利用資格 Qualification for utilization

- ・本学の名誉教授
- ・本学の教職員
- ・本学の学生
- ・その他、館長が特に認めた者

●利用対象者数（平成4年9月30日調べ） University personnel and students

学部学生	大学院学生	教職員	その他	合計
13,280	4,039	5,586	937	23,842

●年間総入館者数（平成4年度） Number of users in 1992

学内者	学外者	合計
629,815	2,408	632,223

●蔵書数（平成5年3月31日調べ） Book stocks

以下（ ）内、附属図書館内数

和書	洋書	合計
2,648,093冊 (485,834)	2,487,387冊 (252,956)	5,135,480冊 (738,790)

●年間増加冊数（平成4年度） Annual increase of books in 1992

和書	洋書	合計
40,027冊 (4,373)	38,493冊 (792)	78,520冊 (5,165)

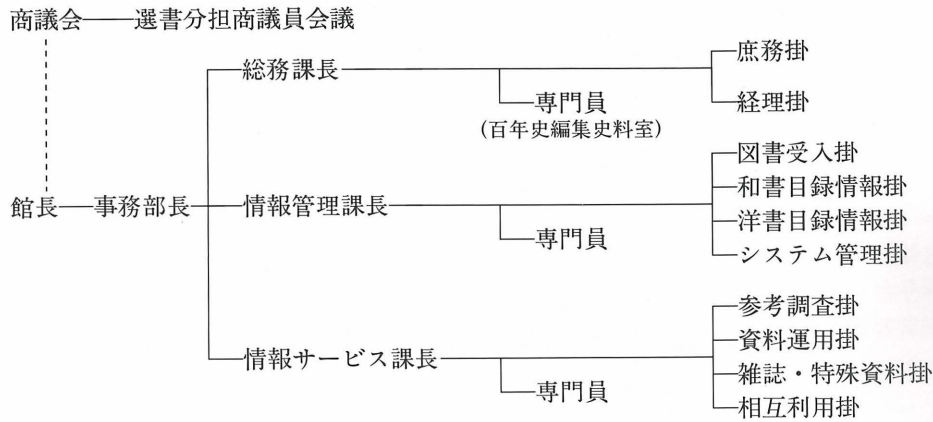
●所蔵雑誌種類数（平成5年5月1日調べ） Number of periodicals

和書	洋書	合計
28,967種 (9,295)	35,440種 (10,571)	64,407種 (19,866)

組織その他

Organizations and other data

▶ 組織機構 Organizational chart



▶ 職員数 Personnel (平成5年5月1日)

70名 (非常勤職員を含む)

▶ 経常費 Budget (平成4年度)

図書購入費	図書館運営費	総計
125,030千円	176,682千円	301,712千円

☆ 主な刊行物 Official publications

- 京都大学附属図書館報『静脩』、年4回発行
- 京都大学蔵『大惣本目録』、3分冊 (1988~1990)

☆ 重要文化財一覧 Important cultural assets (39種170冊)

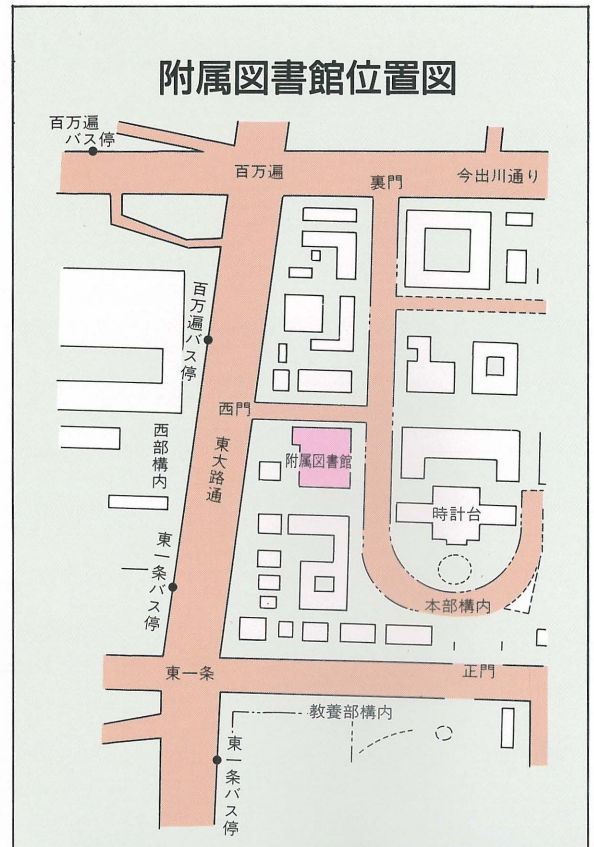
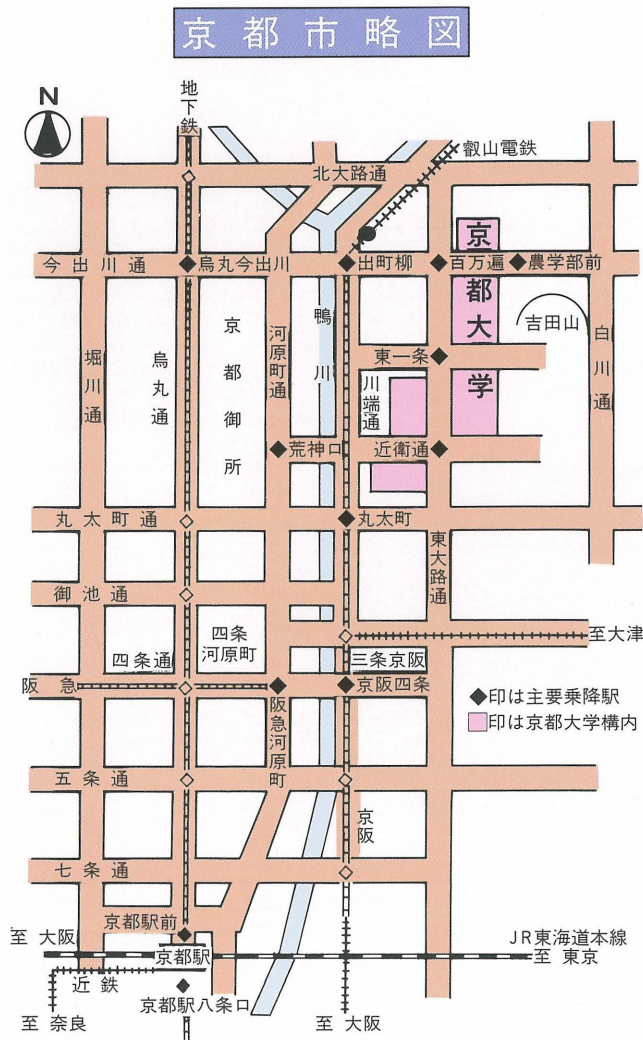
- 紙本墨書 万葉集 巻16 (尼崎本) 1帖 平安末鎌倉初期筆写
- 紙本墨書 古今集注 20巻2帖 藤原教長撰 仁治2年 (1241鎌倉中期) 伝二条師忠筆
- 紙本墨書 兵範記 49巻 兵部卿 平 信範 長承元年 (1132) ~承安元年 (1171)
- 紙本墨書 範国記 1巻 平 範国 長元9年 (1036) 夏秋冬記
- 紙本墨書 知信記 1巻 平 知信 天承2年 (1132) 春記
- 清原家家学書 34種 紙本墨書 (南北朝から室町時代のものを中心とする)

☆ 特殊文庫 Special collection 現在17の文庫があり、その多くは貴重書や重要文化財の指定をうけている。

- 平松家本** 朝廷の儀式典例、日記に貴重なものが多い。兵範記、範国記、知信記の三つは重要文化財指定を受けている。また、真名字本平家物語も著名である。
- 清家文庫** 明経道清原家に伝わった経書ならびに日記秘伝を中心とする。清原家家学書34種は重要文化財である。中でも孝子伝は複製され、広く紹介された。
- 近衛家本** 著名な陽明文庫が設立された際、近衛家から3150冊の典籍が本学に寄贈された。漢籍の他、宇津保物語、落窪物語、大鏡などの古写本もある。
- 谷村文庫** 大正昭和の実業家谷村一太郎氏旧蔵の和漢9200余冊の稀書である。新村出博士の縁で本学に寄贈され、光明皇后願経、伝桓武天皇写経など、異色である。
- 維新資料** 吉田松陰の遺墨を中心に、維新の関係資料が多数ある。奇兵隊日記や大久保利通自筆「三藩盟約書草案」、平野国臣のこより文字など貴重である。
- 旭江文庫** 大賀寿吉旧蔵のダンテに関する典籍約3,000冊の収集である。原典はもとよりダンテに関する新聞、雑誌の断簡にまで収集している。わが国では本文庫以外に他に求めることはできない。

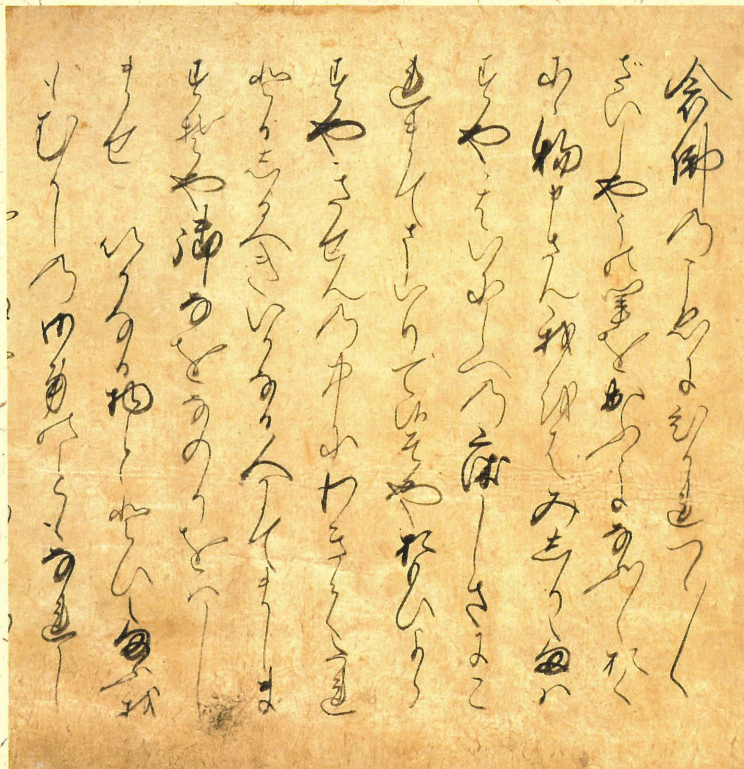
案内地図

Location and maps



市バス案内図 Transportation: from Kyoto Station (JR) and others

主要鉄道駅	乗車バス停	市バス系統	市バス経路等	下車バス停
京都駅 (JR・近鉄)	京都駅前	206系統 特17系統	七条-東大路通經由 北大路駅行 河原町-今出川通經由 錦林車庫行	「東一条」又は「百万遍」 「百万遍」
	京都駅八条口	17系統	河原町-今出川通經由 錦林車庫行	「百万遍」
阪急河原町	四条河原町①	201系統 31系統	四条-東大路通經由 百万遍・みぶ行 四条-東大路通經由 岩倉操車場行	「東一条」又は「百万遍」 ”
	四条河原町②	3系統 17・特17系統	河原町-今出川通經由 北白川仕伏町行 河原町-今出川通經由 錦林車庫行	「百万遍」 「百万遍」
地下鉄今出川	烏丸今出川	201系統 203系統	今出川-東大路通經由 祇園・みぶ行 今出川-白川通經由 祇園・西大路四条行	「東一条」又は「百万遍」 「百万遍」
京阪出町柳	当駅下車東へ徒歩15分			



京都大学附属図書館

〒606-01 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2613
FAX 075-753-2629